

菜の花の巻

諸兄姉なら「菜の花の絵を描いてください」と頼まれたらどんな絵を描かれますか。もちろん、菜の花は、鮮やかな黄色い小さな花を密集して咲かせて、春の訪れを感じさせる花ですから、単体で描いても“絵になる”と思います。しかし、幼いころから、♪菜の花畠に、入日薄れ、見わたす山の端、霞ふかし♪と唄う唱歌に慣れ親しんできた日本人にとって馴染みが深いのは群生して菜の花が絨毯上に咲く「菜の花畑」なのではないでしょうか。「菜の花や月は東に日は西に」という俳句も、月が昇る東の空の紺と日が沈む西の夕焼け空の赤と菜の花畑の鮮やかな黄色を取り合わせた、画人でもあった与謝蕪村ならではの、「スケールが大きく色彩感にあふれた絵画的な句」と評価されています。



私が今年作ったスマホ写真カレンダー「月々の花」の3月のページに登場してくる菜の花も、二宮町の吾妻山山頂の展望台・芝生広場付近に咲き広がっている菜の花畑を見て、春の相模湾の光る海とその向こうに霞む伊豆半島を背に鮮やかな黄色で咲き誇る菜の花も「なかなか絵になるなあ！」と感動して夢中でシャッターを押したものです。この標高136メートルの小高い吾妻山の上で咲き誇る約6万株の菜の花にちなんで、唱歌「朧月夜」が、2016年からJR東日本東海道線二宮駅の発車メロディーとして使用されているというのは後になって知ったことでした。吾妻山にある「吾妻山公園」は、年間を通してさまざまな花が咲き誇る公園で、山頂からは360°の展望を楽しめるのですが、やはり菜の花をバックに富士山を望めるところが最大の売りになっているということが分かります。



今回は、別稿の「松子十句をお送りします」をご投稿いただいた瀬戸松子さんの作風の紹介文書を添えて、即興俳人の高幡大馬王殿に「菜の花で一句」とお願いしたのですが、高幡大馬王殿は瀬戸松子著の「榎の月」まで調べて、「松子さんの句『行き暮れて片割月の花のかな』が、自分が一番気に入っている俳句である『菜の花や月は東に日は西に』(与謝蕪村)にちょっと通じる感じがしました。」というちょっと気が利いたセリフをつけて、次の2句を送ってきてくれました、()内の添付コメントともどもご覧になってください。

菜の花や うねる黄色の エネルギー 高幡大馬王

(広大な菜の花畑から、うねる様な大なるエネルギーを貰う)

菜の花や 彼の地の空の 爆撃機 高幡大馬王

(菜の花畑と青い空の風景はウクライナの国旗を思いださせます)

ところで、「菜の花とはアブラナ科の野菜の花で、食用にも観賞用にも使われる多様な植物」とも言われるほど野“菜”によった位置づけがされている“花”なのですね。実際に、菜の花は、つぼみや花茎、若葉などの部分をおひたしやあえ物、天ぷらや炒め物などにして食べられていますね。日本では古くから食物としても愛されてきているわけです。その上、食用としてだけでなく、菜種油の原料としても重要で、菜種油は料理やマーガリン、石鹼やろうそくなどに使われているのですから、日本人にとっては“なくてはならない植物”になりきっているようですね。「菜の花の種から取れるナタネ油を江戸時代の人々は灯火の燃料としていた。江戸中期ころからは、てんぷら料理も作られるようになり、燃料としてだけでなく食用にも供されるようになり、菜種油の需要は増加。また、種から油を搾り取った後の油粕は肥料としても利用でき、花芽は食用にもなったことから、江戸時代には菜の花は広く作られる農作物のひとつとなった」と説く書もあります。西アジア原産のようですが、古い時代に中国から渡来して以来、日本人に愛され続けてきたからこそ「この花の原産地は日本」という感じが漂っているのでしょうね菜の花には。

菜の花は鮮やかでエネルギッシュな印象を与えるところから、「快活」「明るさ」「豊かさ」という花言葉が当てられています。高幡大馬王殿は俳句に以下のような写真をつけて送って送ってくれました。東日本大震災で津波被害を受けた福島県南相馬市原町区萱浜に作られた菜の花畑を撮った写真だそうです。ここを訪れた観光客ばかりでなく、東日本大震災からの復興に取り組んでこられた地元の人々にどれほどの「快活」「明るさ」「豊かさ」をご感得いただけたのか計り知れないものがあると思います。その上に食料や燃料としての地元産業への貢献。この地に菜の花畑を設けられたた創設者殿に限りない拍手をお贈りしたいと思います。



因みに「菜」の字は、「な」の音が心優しい響きのせいか、陽菜、結菜、愛菜、菜々子、日菜子、莉菜など女性の名前に採り入れられることが多く、明治安田生命の名前ランキングでは数多くの漢字の中から、2010～2015 年の 6 年間連続でトップ 5 に入る人気ぶりで、2012～2014 年の 3 年間にかぎっては 1 位の「愛」について、2 位にランクインしたのだそうです。今後ますます、菜の花畑の観賞スポットが広がって、お互いに優しい響きを持つ桜(Sakura)と梅(Ume)と菜の花(Nanohana)のSUN トリオが「日本の春」を明るく歌いあげ、私たち国民の一人一人を一層心優しく励まし力づけてくれるようになるものと期待しています。